

幼児の科學指導 の理論と實際

戦時下の觀察部について

東京都立武蔵高等女學校

有元石太郎

私はこの十月、東京都教育局主催、東京都保姆講習會に於て圖らずも五日間にわたつて「立地に於ける幼児科學教育の理論と實際」といふ題目の下に平素抱いてゐる考への一端をお話し申上げる機會を得たのであります。この際の保姆の方々の御熱心さに感激しました私は、これから數回、その講演の内容に多少の修正を加へてお報ひしたいと思ふのであります。

お國のために

大東亞戰の相貌は深刻苛烈で、現下日本の事態の變化には誠に重大なものがあります。學徒は學園から直ちに戰場へ出陣しつゝあり、國民學校からは直ちに少年航空兵として、もうすでにお國のために血沫あげて活動をつゞけてゐる者さへあります。銃後の總べての男子は四十歳迄は待機の姿でお召しを待つてゐます。この世界史の大變化の運命的時機に際會した吾々は如何にあるべきでありますか。保姆の方々にしては日常さういふ教育をするのが最も正しい行き方でありませうか、それは外あり

ません。道は一つであります。一日も早く戰時教育の透徹であります。總べては戰ひに勝つためにいふ目標に向はなければなりません。決して「教育もこの例外に晏如たることを許されません。若しも保姆の方々に、幼児の教育だけは特別のものであるなどの考へがあつたならば、すつかり清算しなければなりません。これ程の大暴風雨が園兒の樂園にも呵責なく吹き荒れずにある筈がありません。しからばさう考へさう致すべきでありませうか。

近代戰と科學

近代戰は廣義の新兵器戰であります。ロンドンが獨の空爆から今だに健在なのは、今次大戰に出現した科學兵器の花形電波方向探知機によるものといはれてゐます。南太平洋の方面に於ける日本機の損害がさみに昨今その數を増したのもこの新兵器の使用による新新聞は報じてゐます。科學の進歩は日に日に新であり、戰爭は科學を急速に進歩させることは過去の歴史の證明を待つまでもありません。一日の科學のおくれは悔を千載に残すこ

になります。

この兵器科學の向上の根源をなすものは決して兵器科學研究専門家だけの貢獻ではありません。先頃の新聞紙上に無名の一青年が機關銃を改良工夫した重要な發明の記事がありましたやうに、一般國民の科學水準向上に待つこゝが極めて多いのであります。一方戰場にありて科學兵器を使用する兵士の科學水準の高下は忽ちその使用能率に影響を來し、場合によつては切角の日本の優透兵器も使用不馴れのため故障續出、能率低下を來し戦果に重大蹉跌を來すこゝがあるであらませう。このやうに考へますと、さうしても現代戦に勝つには國民の科學水準の高度發展といふこゝが大切になつて來ます。

「でもそれは幼児の科學教育は餘りに時間的にも關係が遠すぎはしないか」と申されるかも知れません。それは大きい間違ひと思ひます。今日の大人や夫々の専門家は面目にかけてもやります。吾々の考へるのはその次に來るものであり、もつと廣く全體的の立場から考へなければなりません。假りに保母の方々の御努力により幼児の科學が長足の進歩をしたとします。これは母の科學水準の上昇を示すこゝになり、母の科學水準の發展はミリもなほさず生活の科學化を意味し、生活の科學化は一般國民の科學への關心を向上を示すものであります。この横の關係のみでなく、

縦の關係を見ましても、かの滿洲事變直後今日の如く科學教育に努力をしてゐましたならば、その當時の子供は今日第一戦に立つてゐますから、あのアツ島玉碎ももつと違つた形で表れただらうと残念でなりません。今からでも決しておそくないのでありますから、總べての教育者が一層この點に努力をするならば、日本の國力を一層科學的に強大なものにするのでありませう。かく考へて私はこゝに一般國民科學向上に保母の方々の幼児科學教育のもつ重大な役割を強調したのであります。

子供の疑問

子供はあらゆるものに疑問を持ちます。生れ來て、彼等の見るもの聞くもの總べてが驚きであり不思議であります。

生れて初めて物心がつき、さてよくあたりを見れば自分の周圍に父親と母親があります。これも不思議でありませう。なぜ父親は男であり母親は女であるかにも疑問を感じるのであります。父親の胸を探しても乳が見つからないことも、母親だけが赤ちやんを産むことも、不思議であり、人に手があり毛が生えてゐることも、夜眠るわけも大きい疑問になるのであります。

夜月が沖天にかゝつてゐるのも、雨が降ることも、雪の色が白くて、火の色が赤いのも、猿のお尻が赤くて、コンニャクがぶる／＼震えるのも、犬がワン／＼鳴き猫がニ

「ヤンミ鳴くのも彼等にまつては大きい問題なのであります。このやうに幼児の疑問は吾々の思ひつかない天馬空を駆ける様な自由奔放なものであります。では幼児の疑問は非科學的かといひますに、決してさうばかりだといひへません。主客未分化状態にありながらも彼等にまつて科學的の答を要求してゐるのであります。しかもその質問は吾々の答へられないやうな尊い面白いものが多いのであります。この疑問を輕視してはいけませんのであります。これこそ科學の芽であり國家の寶であります。こゝからこそ大東亞建設、米英擊滅の祕術が生れるのであります。

それはなぜか申しますに、今一度前記子供の疑問を再検討してみたいのであります。この問ひに科學的に満足な答の出来る人が何人ありませうか専門の學者でさへ答へられない問ひが多いのであります。従つてこれ等の疑問は學者の好個の研究題目であり、今尙研究中のものさへあるのであります。

人間に男ミ女の別のある疑問は染色體の研究へ進展し、夜眠る事の疑問は腦神經の研究及び週期性への研究に發展し、何れも今尙未解決であり不明の點が多いのであります。これ等の貴重な幼児の疑問に對して、保母の方々が假りに「それは人間に男ミ女があるやう神様がおつくりになつたの」のやうな決定的な指導をいたしましたミすればこ

れでよいのでせうか、又は悪いのでせうか。

若し保母の方々のうちに、幼児の疑問は何等かの形で解決をつけてやらなければならぬといふ考へがあつたミするならば、これは恐ろしいこゝであります。國家のためによくないこゝであります。これもすつかり清算しなければなりません。若しも保母の方々がすぐ何等かの形で子供に教へるやうにしてゐるミ子供は「あゝさうかわかつた」いふやうに受け取り、この尊い疑問が更に發展して學者専門家なごの研究題目になる位のミころまで行かないのであります。現在の大人の方々のやうに、この世の中に男子ミ女子ミがあるのはあたりまえの様に考へ一向不思議にも思はないといふやうな、科學知識注入による疑問の免疫症、不感症になり、男女があるからあるのだといふやうな非科學的錯覺状態に陥り平然としてゐますが、この大東亞を脊負ふ第二の國民には決してこのやうな科學の不感症にしてはいけないと思ひます。幼児の科學心を殺すこゝなくこれを助長すれば、幼児は將來皆大科學者になる素質があるのでありますから、皇國日本の科學發展に保母のもつ役割の重大にして、その使命の尊いこゝに思ひをいたされて、この世界史轉換の時機に際會せられた生甲斐を感じられ、幼児の科學指導に一層の御努力を心から期待してゐるのであります。然らば如何に取扱へばよいのでせうか、それは項を改めて私の考へを申述べてみたいと思ひます。